

# 大東文化歴史資料館だより

第26号 2019.5.31

## 大東アーカイブス第25回企画展

### 平沼騏一郎と土屋久泰

### 大東文化を創った二人のリーダー

展示期間：令和元年5月15日(水)～10月18日(金)

(開室時間 毎週月～金曜日 9:00～17:00)

展示場所：大東文化歴史資料館 展示室(板橋校舎2号館1階)

第25回企画展「平沼騏一郎と土屋久泰 ～大東文化を創った二人のリーダー～」を公開いたします。

平沼騏一郎(機外)は、本学の前身校である「大東文化学院」初代総長であり、その後、大東文化協会第三代会頭も務めました。一方、土屋久泰(竹雨)は、大東文化協会の学術的な機関誌であった『大東文化』の主幹(編集人)を創刊号から長く務めつつ、漢詩作詩法の教授として教壇に立ち、戦後に新制大学となった際には初代大学長に就任しました。

本学はこの二人のリーダーに牽引され、「大東文化学院」創設からその後の発展までを遂げ、さらに新制期には「大東文化大学」設立を果たしました。立場や専門などは異なる二人ですが、本学にとって彼らが果たした役割には共通するものがありました。各時代に求められる「大東文化」の特性と学問観とを模索し、揺ぎ無い教育方針を追求したその姿勢は、現在まで続く本学の創設理念を伝えてくれるものでもあります。

創立96周年を迎える今年、改めて教育理念の真髓を彼らの足跡から辿ります。

#### ◆平沼騏一郎と土屋竹雨

##### ～それぞれが果たした役割～

平沼騏一郎(機外)は、大東文化学院創設以前、学則等を具体的に審議検討するための組織「学院綱領並学則編成委員会」のメンバーでした。1923(大正12)年4月24日に設けられた同委員会は学院創設委員会と通称され、委員長を大木遠吉とし、江木千之・平沼淑郎・中村進午・小川平吉・鷗沢総明・副島義一・山岡万之助に騏一郎を加えた計9名を委員として組織されました。このうち、大木遠吉はすでに大東文化協会初代会頭に就任しており、同年9月には副会頭に江木と小川が就任、騏一郎は大東文化学院初代総長に就任することが決まっていました。他のメンバーも創設時より主要科目の教授とし

て大東文化学院の教育を担うこととなったことから、大東文化学院草創期の重要な会議であったことがうかがわれます。さらに、同委員会の下には騏一郎を長とする「学科課程制定委員会」が設けられ、学科目編成についての責を担いました。いわゆるカリキュラム編成委員会に相当します。そもそも東京帝国大学、京都帝国大学、私立大学の、全く異なる相反する意見をそれぞれ取り入れたものを作成することが前提として検討されていたため、これを取りまとめてカリキュラムを編成することは非常な難題でもありました。紆余曲折の末に騏一郎が決定した「学科課程」は、曰く「皇学の一科」こそが「究極の目的」であると自負したもので、独創性あふれる唯一無二の教育を行う学校となりました。

一方、土屋久泰（竹雨）は、当世一と言われた漢詩人でした。平沼騏一郎と同様に東京帝国大学法科大学を卒業しているものの官僚の道へは進まず、後に日本芸術院会員となったことからわかる通り芸術家であることを自負し、貫いた人物でした。東京帝大を卒業後、大東文化協会幹事として創設当初より機関誌『大東文化』の編集主幹となり、特に同誌における漢詩の選考や評はすべて竹雨によって行われていました。一方で大東文化学院創設時には自らが教壇に立つことはなく、独自の漢詩の世界を追求していました。1931（昭和6）年になって大東文化学院生へ漢詩作詩指導を行なうようになり、以降は教育面での存在感も増していくようになりました。戦時下の一時期、故郷鶴岡へ疎開した折に地元の人々から請われて漢詩の指導を行ったこと等からも、教育者としての資質が垣間見られます。敗戦後には第14代大東文化学院専門学校長に就任し、新しい高等教育機関としての「大学」の在り方、教育内容を模索するようになります。新制大学として「東京文政大学」への移行を推進実現させ初代大学長に就任、その4年後に「大東文化大学」への校名復帰を果たした立て役者でもありました。以降、逝去するまで学長職に留まり、長く本学の発展に尽力した功績から名誉総長となりました。

### ◆『大東文化』3月号

（大東文化協会発行、大正13年3月）

竹雨が編集していた機関誌『大東文化』は、前身を『東洋文化之神髓』（大正12年11月創刊）と言います。大東文化学院始業にあわせて誌名を『大東文化』へと変更し、「発行兼編集人」に竹雨を迎えました。以降、毎号掲載される漢文詩壇の選定と評はすべて竹雨が行なったものでした。誌名変更後初めて発刊された「3月号」（大正13年3月）巻末にある「雑録」には、「本協会成立趣意」「中華民國特使王正廷氏一行招待会」「大東文化学院始業式」等の記事が掲載されており、その中に平沼総長による訓示全文も掲載されて見ることが出来ます。

（大東文化歴史資料館運営委員 浅沼薫奈）



### \* 大東アーカイブスの動き \*

全国地方教育史学会第42回大会が、2019年5月25日～26日に本学を会場（板橋キャンパス、大東文化会館）として開催されました。大会役員でもある大東文化歴史資料館運営委員を務める荒井明夫教育学科教授の案内のもと、初日の午後に本学の附属図書館及び書道研究所を参加者の皆さん（約20名）に見学していただき、その後2号館20221教室や1階展示室に移動して、もっか百周年に向けて行っている本学歴史資料館の活動や開催中の企画展示などについて、2時間ほど中村宗悦館長を始めとした資料館スタッフで解説説明を行いました。

教育史・学校史を専攻されている大会参加者のかたがたからも、大学史編纂の進捗や所蔵資料などにかかわるご質問ご意見などが挙がり、本学歴史資料館としても有益なご指摘を受けて、さらに今後精力的に活動を進めるべく、たいへん貴重な経験となりました。なお今回参加していただいた皆さんには、本学入試広報課や総務課の支援協力を得て、歴史資料館の刊行物である『大東文化大学の歩んできた道』や『大東文化大学史研究紀要』、『大東文化歴史資料館だより』を始め、大学新聞など主だった関係刊行物を謹呈配付いたしました。

（大東文化歴史資料館運営委員 谷本宗生）



## \* 資料紹介 \*

## 『スポーツ大東』『緑桐』『たいれん』

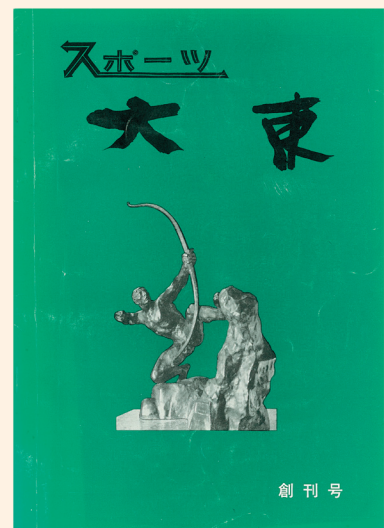
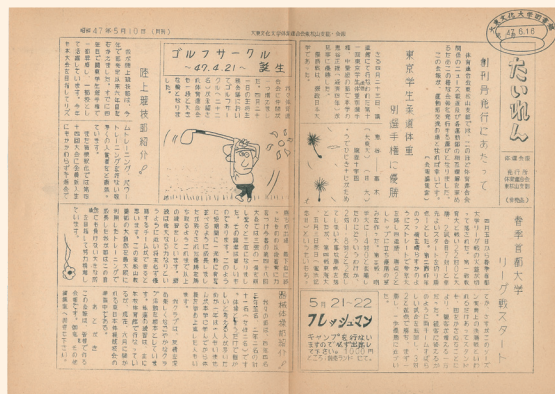
東松山図書館より、所蔵している希少資料についての連絡がありました。協議相談を行った結果、『緑桐』『スポーツ大東』『たいれん』の図書館複本が大東アーカイブスへ移管されることとなりました。いずれも学生自治会によって昭和40年代に創刊されたもので、創刊号から複数号を受け入れることが出来ました。

『緑桐』は昭和42年4月に創刊号が刊行されました。編集は大東文化大学緑桐委員会、奥付に「板橋区志村西台町」と住所が記されていることに時代を感じます。(現在は町名地番変更によって「高島平1丁目」としています)。創刊号「巻頭言」は学生自治会委員長で、続いて学長からの「創刊を祝して」と題する寄稿も見られます。さらに教員からの論稿寄稿が4本あり、その後に学生による「論文」が4本、「紀行文」「詩」「雑感」「随筆」「創作」「評論」と続き、多様な内容であったことがわかります。翌年から学生の論文は「文学論文」と「経済論文」とに分かれ、さらに誌面は充実したものになりました。

『スポーツ大東』は、大東文化大学体育連合会によって創刊されました。創刊号からしばらく奥付に発行年月日が記載されていませんが、創刊号の内容から昭和43年末に発行されたものであると思われます。「体育部」は昭和41年に発足し、翌年の広大な東松山キャンパス開設とともに本格的な活動が始まりました。以来、スポーツの大東、文武両道を掲げる本学の校風を確固たるものとししました。『スポーツ大東』はこの体育部に在籍する全部活動(24クラブ)を紹介し、その成績や記録を記しています。創刊号には昭和43年11月1日に体育部が企画して行なった「第一回体育祭」開催の様と、開催までの経緯についての詳細も記載されていました。巻末には大東文化大学第一高等学校のラグビー部とフェンシング部の紹介もなされています。

『たいれん』は、体育連合会東松山支部が発行していた不定期刊のニューズレターです。創刊は昭和47年5月10日、A4版のわら半紙に手書き文字が並ぶ素朴な作りのもので、当初から年間に複数回の発行がされていました。「各運動部の相互理解を深めるためこの様な会報を発行する」と目的が示されています。執行部会議記録から各部の活動、受賞記録、試合結果等をいち早く届ける役割を担っていたようです。また、体育祭開催の折には「増刊号」も発行するなど、誌面も内容も厚みを増していきました。

以上のように、学生たちが自主的に発行していた雑誌や冊子は、当時の息吹が直に伝わってくるような貴重な資料となります。大東アーカイブスの活動、沿革史編纂においても大いに活用していきたいと考えています。



(大東文化歴史資料館運営委員 浅沼薫奈)

## &lt; 資料寄贈ご協力のお願い &gt;

大東アーカイブスでは、引き続き本学関係資料のご寄贈をお願いしています。学園沿革史に関わる資料がございましたら大東文化大学総務課(大東文化歴史資料館担当)までご連絡いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 百年史編纂事業の進捗状況について

百年史編纂委員会委員長  
経済学部現代経済学科教授 中村宗悦

今年9月に本学は創立96周年を迎えます。いよいよ創立100周年まで4年余りとなって参りました。現在、百年史編纂委員会ではこれまでに刊行した年史の見直し作業を進めるとともに、編纂作業開始後に新たに付け加わった資料の整理を進めているところです。とくに理事会や大学評議会議事録の資料などは、本学のここ30年の新たな動きを知るためにも貴重な情報となるものです。慎重に内容を精査して百年史の本編叙述に役立つよう、資料編に盛り込んでいきたいと考えています。

また文字資料に加えて種々の写真資料も逐次データ化を現在進めているところです。すでに現・入学センター所蔵の写真を中心に数万点の画像がデータ化されています。ブランディング事業の自校史アーカイブプロジェクトとも連動させながら、こちらも肅々と作業を進めて参りたいと思っています。

もちろんこれらの資料整理、データ整理の過程で興味深い発見などがあれば、資料編の刊行前であっても大学サイト内の百年史特設ページ（「継往開来」<http://www.daito.ac.jp/100th/>）に公開するとともに、昨年から実施している「大東文化大学史研究会」において報告・発表をおこない、皆さま方からのご意見も承りたいと考えています。また『大東文化大学史研究紀要』第4号へのご投稿をお考えの皆様におかれましても、ご投稿前にこの研究会で発表して

いただければ幸いです。今年7月25日に第3回目の研究会を実施する予定になっていますので、大東文化大学総務課（大東文化歴史資料館 担当）までお知らせくだされば幸いです。なお、次号掲載分の投稿メ切りは、『大東文化大学史研究紀要』編集委員会より近日中に告知がなされるかと思いますが、投稿自体は随時受け付けております（タイミングによって次号掲載分として査読されるか、次々号になるかの違いです）ので、是非、研究会での発表もご検討ください。

またすでにご承知の通り、今年2月末に本学の取り組みが「私立大学研究ブランディング事業」に採択されました。大東文化歴史資料館も本事業を推進するための8つのプロジェクトチームのひとつ（「自校史教育・研究の推進」）として加わっております。この事業では本学の研究・教育の成果などを振り返り、漢学・書道研究に貢献した教員の活動や業績などを調査・研究することによって、本学の教育史（自校史）を再認識し、在学生・卒業生の自校史教育に寄与することを目的としています。また、これまでにすでに創立50周年以降の年史や記念誌を検索機能が備わったPDFファイルに変換し、前述の百年史特設ページで公開しています。今後は、文章や写真のみならず、動画の掲載などによって、より一層の充実を図っていく予定にしております。

## 【大東アーカイブス活動記録】（2018年10月～2019年3月）

- |       |  |      |   |
|-------|--|------|---|
| 10.19 | 第二回大東文化大学史研究会（於：大東文化会館）                | 1.24 | 全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会議・研究会（於：立教大学）        |
| 10.24 | 企画展入れ替え作業<br>大学職員より資料受贈                | 2.18 | 総務課所蔵資料（理事会・評議会議事録）移管<br>土屋竹雨書軸納品       |
| 10.25 | 第24回企画展「写真に見る大東生 沿革史のなかに描かれた学生像」公開     | 2.21 | 総務課所蔵資料（理事会・評議会議事録）移管                   |
| 11.5  | 中林史朗氏（中文科教授）より資料受贈                     | 2.28 | 総務課所蔵資料（理事会・評議会議事録）移管                   |
| 11.6  | WG会議                                   | 3.4  | 石井寿美世氏（社会経済学科准教授）より資料受贈                 |
| 11.8  | 京都大学より年史編纂事業調査のため来館対応                  | 3.5  | 百年史編纂委員会会議（通算13回）<br>第二回運営委員会会議<br>WG会議 |
| 11.30 | ニューズレター「大東文化資料館だより」Vol.25発行            | 3.15 | 宮瀧交二氏（歴史文化学科教授）より資料受贈                   |
| 12.11 | 紀要編集委員会会議<br>百年史編纂委員会会議（通算12回）<br>WG会議 | 3.20 | 木村榮氏（同窓生）より資料受贈                         |
| 12.1  | 木村榮氏（同窓生）より資料受贈<br>大学職員より資料受贈          | 3.28 | デジタル化写真データ納品（2018年度分）                   |
| 1.11  | 紀要編集委員会会議（提出原稿確認）                      | 3.29 | 『大東文化大学史研究紀要』第三号刊行                      |

大東文化歴史資料館だより

第26号

DAITO ARCHIVES NEWSLETTER Vol.26

発行：2019年5月31日

編集発行：大東文化歴史資料館

〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL 03 (5399) 7646 / FAX 03 (5399) 7647

URL：http://www.daito.ac.jp/information/about/archives/index.html